2024.6.1

【湘南国際村めぐりの森植樹祭】
体験レポート　4

5月12日(日)【第26回 湘南国際村めぐりの森 植樹祭】に参加をしました。
サンケイアイは運営グループとしても参加をさせて頂き、今回も植樹祭の取材記録の撮影を担当しております。もちろん、植樹チームとしても参加をしてきました！
撮影チームと共に、2度目の春の植樹祭を体験します。

前回の植樹祭では、植樹の≪苗木を植えるチーム≫と、育樹の≪苗木の生長を手助けするチーム≫にわかれて同時進行で作業をしましたが、今回は全員での植樹作業です。

400名の参加者が集まり、私たちは全員で2,340本の苗木を植樹しました。

最近は、5月の中旬でも初夏並みの最高気温になる日も珍しくなく、天候と共に日中の気温も気がかりでした。
しかし、前日は太陽が出て気温も高く強風だったそうですが、当日は朝から曇り空で、気温も少し肌寒く感じるくらいで、一日を通して、植樹の作業がしやすい天候で進めていくことができました。

開会式では、2024年4月に神奈川県より、「OECM」の自然共生サイトの対象地として≪湘南国際村めぐりの森≫を認定して頂くよう環境省へ申請し、受理されたというお話がありました。早ければ、今年の10月には自然共生サイトへ登録されるそうです。

また今年の10月には、G20のグローバル・ランド・イニシアティブの地球環境に関するセクションの使節団が、子どもたちと一緒に植樹をおこなうイベントを湘南国際めぐりの森で開催する予定があり、なんとシルワのみなさんがイベントの主催をされるそうです！

2024年は飛躍的に輪が広がり、樹木と森の大切さがより発信されることをわたしたちも期待しております。

森の再生活動を続けていくためにも、森づくりの文化は次世代へ継承・継続してからこそ力を発揮する。子どもたちへ森の再生のノウハウを引き継がなければならないというお話がありました。
「人間は自然界の一員であり、生態系の一部。絶対に自然のないところで生きていくことはできません。植樹祭を通じて、人間は破壊するだけではなく、森を復活することができるということを実体験で学んでもらいたい」と仰っていたとおり、次の世代へ繋いでいくためには、人との繋がりもとても大切です。

※30by30とは「2030年までに陸と海のそれぞれ30%以上の面積を保全する」という世界的な目標です。
日本では2021年時点で陸地の20.5%・海域の13.3%が保護地として保全されています。

※ OECM（Other Effective area-based Conservation Measures）
国の保護地域以外の、民間・企業が管理する緑地や漁業管理地域等の生物多様性保全に資する地域。

※自然共生サイト
民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域。

※環境省　30by30について
https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/

シルワホームページより
https://www.silva.or.jp/

大切なお話を開会式で伺うことができ、気持ちを新たにみんなで植樹地へ移動し作業を開始しました。

この植樹祭は、人間の手によって破壊される前の土地本来の潜在的な植生を復元することによって、原生林に近い失われた森を人の手によって復元するための植樹活動です。

全体で34種類の苗木を植えていきますが、同種の苗木を隣りに植えてはいけません。多様な種を混ぜて、密に苗木を植えます。このように、わざと他種と競争させることにより自然界の競争原理を応用させて、生長した苗木たちで自然淘汰がはじまります。

森の再生を自然に任せると200年～300年がかかると言われており、非常に時間がかかります。しかし混植・密植型植樹の場合は、20～30年で土地本来に近い状態の森をつくりだすことができると言われています。
苗木たちには非常に厳しい環境にはなりますが、この競争により、森をより早く再生させることができるのです。

苗木を植え終えた後は、藁でマルチングをしていきます。

苗木を植えた状態で放置をしてしまうと、周辺の草があっという間に生長し苗木を覆いつくしてしまいます。蔓性の草が苗木に巻き付いて倒してしまったりと、他の草が生長することで、苗木の生長に影響が出てしまいます。

前回の育樹で体験をしましたが、苗木に巻き付いていた蔓性の草はとても丈夫で、人の手でも取り除くのは大変な作業でした。藁を敷いて土に陽を当てないようにするマルチングによって、しばらくの間は苗木の生長を草から守ることができます。

参加者の皆さんで植樹地を囲むように列になり、マルチング用として準備をして頂いた藁を手渡しで運んでいきました。
藁に触れる機会もいままでなかったので、藁の手触りと草の匂いはとても新鮮で、大人も子どもと一緒に藁まみれになりながら楽しく藁リレーをしていきました。

植樹地はゆるい斜面になっています。斜面に対して、下から上に向かって横に並べていきます。斜面に対して縦に並べてしまうと、雨が降った時に水が藁に沿って斜面を流れていってしまい、土に染み込まないのだそうです。

藁も敷いただけでは、風で飛んでしまったり、雨で水分を含んで重くなった藁が苗木を引き倒してしまう為、【藁縄】を使用して藁を押さえる作業をしました。

藁縄がけ作業は、はじめての体験でした。
植樹地のまわりに打ち込まれている杭があるのですが、その杭に藁縄の端を縛ります。そのまま植樹地の中を通り、苗木に引っかからないように、縄を対角線上にある反対側の杭へ通して縛ります。別の杭にも、新たな藁縄を縛り、対角線に通して、マルチングされた植樹地の上に何本も交差させながら縄をかけていきます。
最終的に網の様にして、網目状にして藁縄がけ作業は終了です。
今回の植樹も、シルワの皆さんに助けて頂きながら、無事に終えることができました。

作業後は、初めて植樹祭に参加をした時に植えた苗木の様子を見に行きました。

2022年11月6日

2023年11月12日

2024年5月12日

2022年11月に植えた苗木は30センチ程でしたが、1年後には腰丈くらいの樹高に生長しました。今回は、大きな樹高の変化は見られませんでしたが、秋より葉がついて枝が広がっている為か、ひとまわり大きくなったように感じました。
2～3mの大きさになるには、まだまだ時間が必要ですが、次の秋の植樹祭では、より生長した姿を見ることができると思うと、いまからとても楽しみです！

前回は育樹チームだったので、一年ぶりの植樹作業でした。
やっぱり土堀りで苦戦をしてしまいましたが、植樹作業は良い運動となりますし、何よりも森を再生するお手伝いができて、心も体もリフレッシュすることができます。4回目の参加とはなりましたが、初心を忘れずに1本1本丁寧に植えることの大切さと、森の再生の重要さを確認できた植樹祭になったと思いました。

体験してみると、植樹はとても楽しいです！そして、普段生活をしている中では、気づけない森の大切さを、自らの手で苗木を植えることで改めて知ることができます。
そして普段、不足している運動にもなるので、良いこと尽くしではないでしょうか？みなさんもSDGs活動として、ぜひ植樹体験をしてみてください！

次回の開催は、2024年11月10日（日）を予定しています。

5月12日の様子を後日YouTubeにて公開予定です！
お時間のある時に、ぜひご覧ください。

【湘南国際村めぐりの森植樹祭】は年に2回開催されます。
このレポートを見て、ご興味を持たれた方、次回の参加を希望される方は
主催者：**非営利型一般社団法人 Silva（シルワ）**のホームページをご確認ください。
https://www.silva.or.jp/

【お問合わせ】
株式会社サンケイアイ【SDGsプロジェクトチーム】
https://www.sankei-eye.co.jp/contact/
（当社HPよりアクセスをお願い致します）